

Company, Society, and School : The Dilemma in the Educational Practice

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/20440

教育現実と教育意識

——金沢市内小中学校父母の教育意識調査から——

村井淳志

Educational Reality and Educational Consciousness

——**Research on elementary and
junior high school in Kanazawa-city**——

Atsushi MURAI

1. 調査の意図および概要

臨教審第1部会が「教育の自由化」「個性重視の原則」を打ち出し、注目を集めてからすでに7年近く経過した。臨教審は87年に最終答申をまとめて審議を終了したが、第1部会の発想、つまり教育をひとつのサービス商品ととらえ、購入者（父母・子ども）の「選択の自由」を拡大してサービス供給側（学校・教師）の競争を促そうという発想自体は、大都市部を中心とした私立中学受験者の増加（公立中学を拒否）という実態になし崩し的に「現実化」してきた。

子どもに私学進学をすすめる親の意識には多様な要素があり得よう。公立学校に対する忌避要因として、一時期大きな問題となった校内暴力・いじめや管理主義の忌避、高校受験を回避させたいとする意識、また私学への吸引要因として受験に適応したカリキュラム編成や特定の「校風」の魅力、さらに極端な場合には高い学費を納められない階層の子どもたちから自分の子どもを隔離しようとする意識さえ働いているかも知れない。しかしこれらの現実、結果的には学校側ではなく子どもの側に新しい競争をもたらしている。しかもそれは親のもつ経済力や「文化資本」を傾けた総力戦だけに、その結果は日本社会の新たな階層分化・固定化へとつながりかねない。

大都市以外の地域では有力な私立学校がそれ

ほど存在しないため、現在のところ大都市圏のような事態はない。しかし地方においても少なくない親たちが上記のような意識をもってるとすれば、私学という出口のない意識がより複雑な屈折をたどらざるを得ない。逆に上記とは別の意識や別の解決展望をもっているとするならば、その理由はどのようなものなのか、それは将来的にも安定したものなのか、などが問われるだろう。

筆者は以上のような視点に立って、職場のある金沢市の公立小・中学校の保護者の意識調査を実施し、分析を行ってきた。本稿はその調査研究の報告である。

この調査は、筆者自身も属していた東京都立大学教育学研究室「現代と教育実践」研究会のグループ（代表・坂元忠芳氏）が首都圏M市で実施した調査との比較調査として始められた。したがって調査項目は、いくつか金沢の実情に合わせて修正した以外は、都立大グループの調査と同じである。¹⁾調査は1991年6月から7月にかけて実施した。金沢市内の市街化区域を中心に公立小学校14校、中学校16校で小学校5年生と中学校2年生の各1クラス、計30クラスの保護者にアンケートをお願いした。市内には61校の公立小学校、24校の公立中学校があるが、校区のほとんどが市街化区域なのは小学校の40校程度、中学校の20校程度である。機縁的方法で調査校・クラスを決定したため純粋な無作為抽出ではない。アンケートは担任の先生から子

どもを通じて手渡し、数日留置の後、やはり子ども・担任を通じて回収した。配票数は1083、有効回答は1017、回収率は94.5%であった。調査表とその単純集計は末尾に掲げた。

2、学校での成功・不成功と親の社会階層との相関

2-1 学校の平等化機能への期待と学校の現状
教育機会の拡大によって社会の平等化を促すことが期待されてきた公教育制度は、近年大きな曲がり角に来ている。理論的にはアメリカのポールズ・ギンタス⁽²⁾やフランスのブルデューなどによる再生産論⁽³⁾が盛んに紹介され、また実証的にはたとえば85年に実施された日本社会学会の第4回SSM調査⁽⁴⁾で、75年まで戦後一貫して縮小してきた日本の階層間格差が75~85年にかけて再拡大に転じたことが指摘された。それらによって日本の階層構造と、それに対する学校の役割が改めて注目されるようになった。

社会学的調査で言う階層とは通常、収入・学歴・職業などの指標を用いて区分した社会集団をさす。この社会階層の動態と学校教育がどのような関係にあるかを総合的にとらえるためには長期にわたる調査が必要であろう。ある時点でそれを検討する場合は、とりあえず親の所

属階層を示す変数と、子どもの学校での達成にかかわる諸変数が相関関係にあるかどうかを調べるしかない。そしてもし強い相関関係が現れているなら、学校は、子どもの学校生活での達成を、出身階層に関わりなく保障するには至っていないと言える。(もちろん、そもそも学校がそのような保障責務を負うべきか、またそれが可能なかどうかは議論の余地がある。とりあえずここではその議論には立ち入らない。)

2-2 親の社会階層—学校での成功・不成功の相関分析のマトリックス

a ; マトリックスの概要

このような相関関係を調べるために、表2-1のようなマトリックスを作成した。縦には階層にかかわる諸変数、横には学校での達成にかかわる諸変数をとった。まず階層変数としては、世帯年収（問44）・父母職業（問42・43）・父母学歴（問40・41）・住居（問45）、ついで階層に大きく規定されつつも親の独自の判断の余地がある子どもの環境変数（教育的配慮）として、子ども一人に必要な学校以外でかかる教育費（問16）・塾や家庭教師をつけているか（問13）・水泳やピアノなどの習い事に通わせているか（問14）・子ども部屋を与えているか（問15）・百科事典や高級楽器⁽⁵⁾や衛星放送受信機などの文化

表2-1 親の社会階層と学校における成功・不成功の相関（表左）

		成績			変化			教師			友人			生活			
		全体	小	中	全体	小	中	全体	小	中	全体	小	中	全体	小	中	
階層	年収	◎	△	○			△										
	父職業	◎	◎	◎				△									
	母職業	◎	◎	△	△	△									△	△	
	父学歴	◎	◎	◎	◎												
	母学歴	◎	○	△	△		○							○	△		△
	住居				△	△			○								
配慮	教育費	◎	△	◎	◎	○	◎	○	○						○		△
	塾	○		△	◎	△	△		○		△		△	△	△		
	習い事	◎	◎	◎	◎		○	◎	○					△	△		
	子部屋	◎	△	○	◎		◎	△	△		△			△			
	文化財	○	○	○			△							△			
	対話		△					△						○			
成績		/	/	/	/	/	/	◎	△	◎	◎	○	◎	◎	○	◎	

◎, ○, △はそれぞれカイ2乗検定で、1%, 5%, 20%の水準で有意差が見られた。

財を保有しているかどうか(問17)・子どもとの対話時間を一日何時間ぐらいとっているか(問21),をとった。

ついで横に学校の成績(問11)⁽⁶⁾・小学校3年時と比較した成績の変化(問12)⁽⁷⁾・先生との関係(問6)・親しい友人がいるか(問7)・学校生活は楽しそうか(問10)などをとり,それらを総称して「学校における成功・不成功」とした。なお備考として,成績がそれ以外の成功・不成功変数と相関しているかどうかを最下欄にとった。

そして縦と横の諸変数の相関をカイ2乗検定⁽⁸⁾で調べた結果が表1である。

これを見ると,親の年収・学歴・職業という伝統的な階層変数と;子どもの成績が強い相関関係にあることがわかる。世帯年収・父親学歴・母親学歴・父親職業・母親職業という5つの変数と子どもの成績のクロス集計を見ると,そのカイ2乗検定のP値⁽⁹⁾はいずれも0.000,つまり0.001にも充たない数値であり,非常に強い相関関係を予想させる。

b ; 世帯年収と成績の相関関係

まず年収と成績の相関を検討してみよう。図2-1が年収幅ごとに成績のパーセンテージを図示したグラフである。⁽¹⁰⁾これを見ると,親の年収が400万円以下から1200万円までの諸階層では,親の年収が増加するとともに成績上が直線

的に増加し,逆に成績下が直線的に減少していることが分かる。年収400万円以下の子ども(全体の約1割)のうち成績上を達成できたこどもは2割弱なのに対し,800万~1200万円の子ども(全体の約4分の1)はその5割が上位の成績を残している。つまり親の年収により,上位の成績を達成できる割合に2.5倍もの格差が存在している。なお,親の年収が1200万円を越えると成績上が減少・成績下が増加に転じる。理由は即断できないが,1200万円という収入ポイントが収入変数と成績変数の関係に大きな意味をもっていることが推定できる。また都立大グループが首都圏M市で行った調査でも上記のような全体的傾向,そしてその傾向が逆転する年収が1200万円であることも,金沢とまったく同様の結果が出ている。

c ; 親の学歴と成績との相関関係

次に親の学歴と成績との相関を検討してみよう。図2-2が父親,図2-3が母親の学歴と子どもの成績の比率グラフを添付した。これを見てもやはり親の学歴と子どもの成績との間に強い相関関係が存在する。特に母親の学歴は前記5つの階層変数の中で,もっとも強い相関関係があると推定される。父親・母親いずれの場合も,学歴が高くなるにつれ子どもの成績上はほぼ直線的に増加し,成績下は直線的に減少している。

P値一覧(表右)

成績	変化	教師	友人	生活
全体	全体	全体	全体	全体
0.000	0.629	0.519	0.524	0.649
0.000	0.236	0.122	0.824	0.769
0.000	0.109	0.962	0.962	0.069
0.000	0.008	0.538	0.840	0.738
0.000	0.056	0.859	0.419	0.058
0.516	0.079	0.633	0.847	0.675
0.000	0.000	0.020	0.550	0.026
0.050	0.000	0.692	0.072	0.176
0.000	0.000	0.004	0.581	0.120
0.000	0.838	0.171	0.152	0.123
0.017	0.838	0.641	0.688	0.249
0.292	0.321	0.109	0.030	0.810
/	/	0.000	0.000	0.000

図2-1 成績と世帯年収の相関

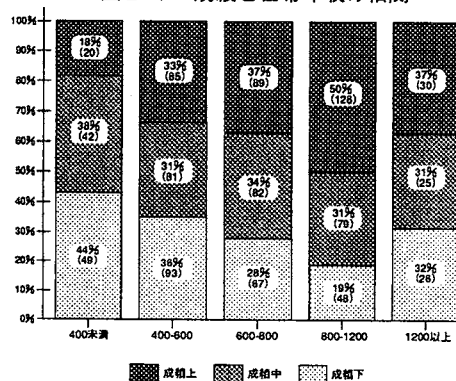


図 2-2 成績と父親学歴との相関

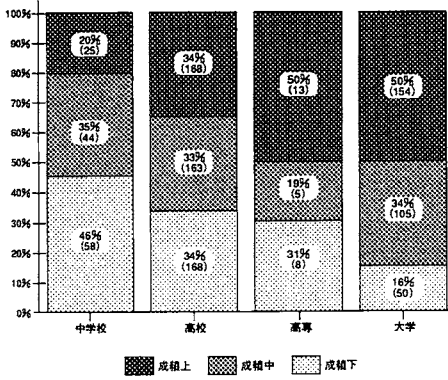


図 2-5 成績と母親職業の相関

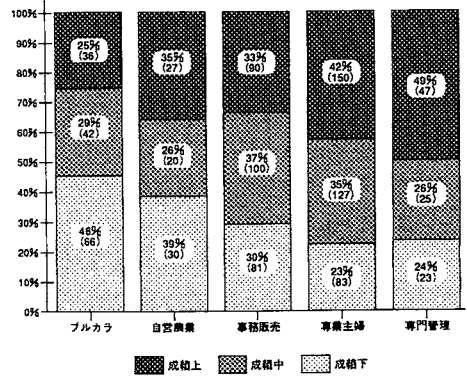


図 2-3 成績と母親学歴の相関

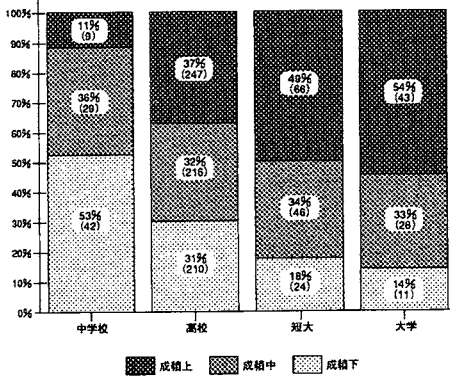


図 2-6 成績と文化財所有の相関

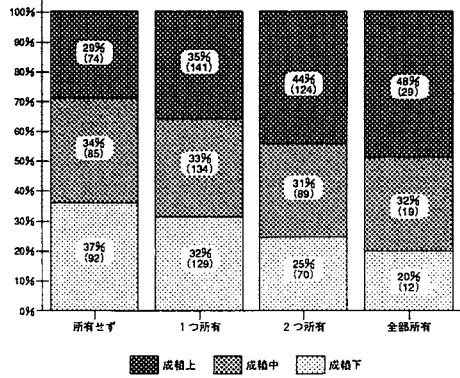


図 2-4 成績と父親職業の相関

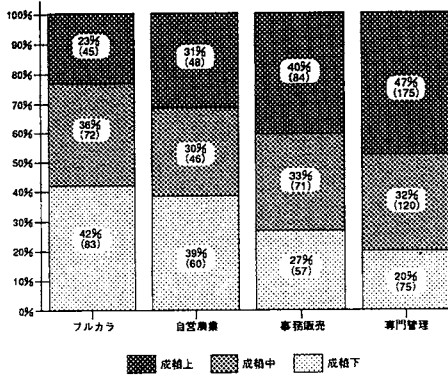
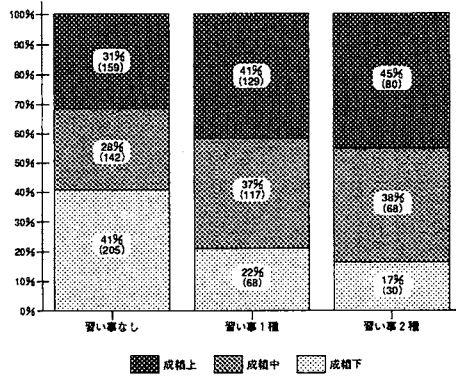


図 2-7 成績と習いごとの相関



父親・母親いずれの場合も、親が高校卒というケースで成績上・中・下がほぼ3分されているのに対し、父親が中学卒（全体の約13%）の場合成績上が2割、母親が中学卒（全体の約8%）の場合は成績上は1割である。これに対して父親が大学卒（大学院修了を含む、全体の約31%）の場合成績上はほぼ半数、母親が大学卒（同、全体の約8%）の場合成績上は約54%にも達する。つまり母親が中学卒か大学卒かで、上位の成績を達成できる割合に実に5.4倍もの格差が存在する。（父親の場合は2.5倍）成績と母親の学歴との間にもっとも強い相関が現れた点も首都圏M市と同じである。

d：親の職業と成績との相関関係

次に親の職業と成績の相関を検討してみよう。職業変数は年収・学歴と異なり、職種間数量的な差異は自明ではない。ここでは熟練形成の年数などによる伝統的な職業威信分類にしたがって、専門技術職（大学卒程度の学歴プラス公的試験などが必要な職種）・管理職（課長以上の公務員・会社員）を「専門管理」（問42・43の選択肢1・2）、事務職・販売関係など一般ホワイトカラーを「事務販売」（同2・4）、小売店主や中小企業経営・農業をあわせて「自営農業」（同5）、運輸・通信・労務・サービス関係などの現業部門を一括して「ブルーカラー」（同6・7・8）と分類した。図2-4が父親、図2-5が母親のもので、やはり職種ごとの成績割合を図示したグラフを添付した。まず父親の職業と成績との相関を見ると、ブルーカラー・自営農業・事務販売・専門管理の順で、成績上が直線的に増加し、成績下が直線的に減少していることが分かる。父親職業の場合、ブルーカラーの父親をもつ子ども（全体の20%）で成績上は22.5%なのに対し、専門管理職の子ども（全体の36%）で成績上は46%で、成績上の割合は2倍程度と、学歴・年収ほどではないとはいえやはり大きい。

母親職業⁽¹¹⁾の場合やや複雑である。しかし概ね、父親と同じ様な傾向が現れた。大きな相違点としては、自営業の母親が事務販売よりも成

績上が多い点（しかし成績下も多く、自営業の母親をもつ子どもは成績が上下に二極化していることが分かる）と、父親にはない専業主婦という「職種」が存在することである。専業主婦層の子どもは成績上では専門管理職に及ばないものの、成績下ではわずかながら専門管理職よりも下回っている。全体的傾向として、ブルーカラーの母親をもつ子ども（全体の14%）で上位の成績を達成できたのが約25%なのに対し、専門管理職の母親をもつ子ども（全体の10%）は約半数が成績上であり、そこには父親職業と同じ約2倍の格差が存在している。

首都圏で強い相関関係が現れた住居（一戸建てか集合住宅か、所有か賃貸か）については、金沢ではほとんど相関が現れなかった。

e：親の教育的配慮と成績との相関関係

親の社会階層変数（年収・学歴・職業）のうち、親の学歴は子どもの生前から、また年収・職業も子どもが学齢期に入る頃にはほぼ確定している。先の検討のように、現在金沢では、親の階層と子どもの成績がかなり強く相関していることがわかった。それでは、そのような階層に強く規定されつつも、親の教育方針、子どもの数、子ども自身の希望の取り入れ方など、親の判断が媒介するような環境的要因は、果して子どもの学校での成功・不成功と相関しているのだろうか。

まず家庭で所有している文化財と成績との相関を見てみる。百科事典・高級楽器・衛星放送受信機⁽¹²⁾の3つを取り上げた。これらを購入するにはかなりの収入が必要である。と同時にそれらのもつ文化的魅力や家庭における教育力に関する独自の理解が要求される。図2-6の、3つのうちいくつを所有しているか（文化財変数）と成績と相関グラフを見ると、文化財の所有数が上がるにしたがって、成績上が直線的に増加し、成績下が同じように減少していることが分かる。家庭でのこれら文化財の所有・非所有は成績と強く相関している。

次に習い事について見てみよう。金沢の場合、

塾・家庭教師に通っている子どもは37%程度だが、習い事には半数の子どもが通っており、そのうちの3分の1以上が2種以上に通っている。習い事は、①伝統的な習字・そろばん、②スポーツ関係（スイミング・サッカー・野球など）、③芸術関係（ピアノ・バレエ・絵画）に大別されるが、これらが成績と強く相関していることが分かった。図2-7のグラフを見ると、これまでの諸変数ほど急激ではないが、やはり習い事の数の増加と成績上の増加は正比例関係にある。

次に学校以外にかかる子ども1人当たりの教育費について検討してみる。問16の回答選択肢のうち、2の「0～1万円」を5千円、3の「1～2万円」を1万5千円、4の「2万円以上」を2万5千円と仮定した場合の1人当たりの平均教育費は、小学校では8315円、中学校では10685円であった。また小学生の場合、約半数が2（0～1万円）と答え、この金額にかなり集中している。それが中学になるとゼロ・1万円以下・1～2万円・2万円以上がいずれもほぼ2割以上に達し（「ゼロ」は12%→23%、「2万円以上」は6%→19%）、教育費支出動向が分散する傾向にある。図1-8は小学校での教育費と成績のグラフだが、やはり教育費の増加と成績上の増加が正比例関係にあり、相関関係があると推定される。これら以外の塾・子ども部屋の保有など経済力がよく影響する「教育的配慮」変数についても、表1に示されたように相関関係が現れた。しかし「対話時間」についてはほとんど相関が現れなかった。

f：成績以外の成功変数との相関

本調査では成績以外に、子どもが学校の教師と良好な関係にあるかどうか、親しい友人がたくさんいるか、学校生活が楽しそうかなどを聞いた。ただこれらは成績ほど数量的に明瞭ではないこともあって、全般的にはあまり階層や配慮との相関はみられなかった。少なくとも親の階層が子どもの教師との関係や友人関係を直接規定するという悲しい現実は、少なくともこの調査からは現れなかったのは救いである。

ただこれら「教師」「友人」「学校生活」のいずれも成績との強い相関が見られ、カイ2乗検定ではいずれもP値が0.001を下回った。つまりこれらの変数は直接に階層との相関はみられないが、階層と強い相関関係にある成績という変数を媒介にしながら、子どもの対教師関係・友人関係・学校生活に影を落としている可能性がある。図1-9は成績別に教師と良好な関係にあるかどうかを聞いたグラフである。この種の質問では「よい」と答える方向へ強い誘引が働くのが普通であり、おそらく「分からない」には「良好ではないかも知れない」との判断がかなり含まれていると思われる。これを見ると成績が下がるにしたがって教師との人間関係も悪化することが示唆されている。

2-3 小結：階層化実態と親の教育要求

以上見てきたように、子どもの学校での成績と、親の社会階層やそれにもとづいた「教育的配慮」とはきわめて強い相関関係がある。つまり現状の学校は、社会階層の世代間移動をうながす社会機構としてはそれほど有力ではないと言えよう。もちろん階層の世代間移動の実態は一時点の相関を測定しただけでは明らかにはならない。継続的に進学率が上昇し、社会の平均所得が増加し、ホワイトカラーや専門管理職が増加すれば（少なくとも戦後教育改革時から75年頃まではほぼそのような傾向にあった）、たとえ学校の成績が上位でなくとも親の階層とは違った階層に移動できる機会は増大するだろう。ただこれらはいずれも学校の外部要因であり、たとえそうだとでも学校自体がそのような社会動態とどう関係するのかは常に問われることになる。

そこで次に問題となるのは、おそらく親の社会階層と子どもの成績との強い相関関係に直感的に気づいていると思われる親たちが、臨教審の「教育の自由化」論（教育を受ける側の「選択の自由」=自由競争の拡大）に対してどのような要求をもち、それが所属する社会階層と関係

しているのかどうか問題となる。それはおそらく親の教育要求が階層ごとにかなり分裂する傾向にあるのか、それとも階層を越えて教育に関して幅広い合意が成立するのか、という点に焦点化されると考えられる。首都圏では私学志向という形で教育要求が階層ごとに分裂してきていることは先に述べた。少なくとも首都圏のような形では教育要求の分裂は顕在化していない金沢では、潜在的に親の教育要求はどのような状態にあるのかを分析することが次章の課題となる。

3、親の教育意識の構造と動態

3-1 教育意識の構造モデルの作成

親の教育意識にかかわる質問は、問22から問28までの7つである。これらに対する回答をもとに親の教育意識の構造を探っていくわけだが、親の意識や回答パターンを分類できる有力な機軸が事前に存在するわけではない。そこでまず、それを析出して意識構造のモデルを作成していきたい。そのような作業には林の数量化3類⁽¹³⁾による解析がきわめて有効だと考えられる。

7問のうち問26をのぞく6問は概ね、はい—いいえ—わからない(無回答)という回答パターン

を求めている。また問26については1～4(子どもを「義務教育終了」～「短大卒業」まで進学させたい)を選んだ者と、5(「大学卒業」まで進学させたい)を選んだ者に再コード化し、他の設問と回答が同じパターンになるようデータを整理した。そこで、各回答に対し1と0からなる2桁の数値を与えることにする。たとえば問22に対して1(現在のような学力競争は「よい面もある」)を選んだ者に1,0, 2(学力競争は「悪い面しかない」)を選んだ者には0,1, 無回答の者や「わからない」を選んだ者には0,0という数値を与える。そうすると1ケースに対し各設問に関して3種類、全体で $3^7=2187$ 通りの回答パターンがありうる。⁽¹⁴⁾各設問2列づつで14列、回答者数が1017人だから、全体としては1017×14の行列が得られる。これを数量化3類で解析し、付与されたウェイトの高い順にカテゴリーを配列したのが表3-1である。これはいわば、頻度の高い組合せの第1位と2位であり、各カテゴリー一問の近さを数量化したものである。この組合せはどのような意味を持っているだろうか。

第1軸を見ると、ウェイトの高い順に偏差値・私学・競争などの肯定が目立ち、また現在公立学校で教えられている科目が役立つとしながらも、親の責任で塾へもやらせようとする。いわば現在の学力競争秩序を是認・肯定し、公

表3-1 教育意識に関する数量化3類解析表

1 軸		2 軸		各説明は次のような意識の略称
偏差値肯定	1.73039	規則必要	2.08783	
私学志向	1.54964	学歴志向無	1.7329	問23 「偏差値による高校ランクづけは好ましい」を「偏差値肯定」 「好ましくない」を「偏差値否定」
競争肯定	1.41094	偏差値肯定	0.68731	問24 「授業科目はほとんど役立つ」を「科目役立つ」 「役立たないものもある」を「役立たない」
科目役立つ	1.12369	科目役立つ	0.68031	問25 「親の責任で塾へ行かせるのも仕方ない」を「親の責任」 「学校だけで勉強がわかるように」を「学校だけで」
親の責任で	1.07795	競争肯定	0.49667	問26 「子どもを短大(以下を含む)まで進ませたい」を「学歴志向無」 「大学まで進ませたい」を「学歴志向」
学歴志向	0.91268	学校だけで	0.4242	問27 「私立学校への進学考える」を「私学志向」 「考えない」を「私学志向無」
規則必要	0.4174	私学志向無	0.33862	問28 「学校がきまりをつくり守らせることは必要」を「規則肯定」 「必要でない」を「規則否定」
規則不必要	-0.32454	偏差値否定	-0.34375	
私学志向無	-0.46423	競争否定	-0.41879	
役立たない	-0.6856	役立たない	-0.46345	
学校だけで	-0.69139	親の責任で	-0.65227	
偏差値否定	-0.85658	学歴志向	-1.20475	
学歴志向無	-1.09263	規則不必要	-1.587	
競争否定	-1.4079	私学志向	-1.64459	

立・私学・塾を問わず既存の教育施設をフルに活用しながら子どもの上昇をはかろうとしている意識と言ってよい。マイナス領域はその逆の意識であろう。そこでこの軸をエリート志向強-エリート志向弱と名付けることにする。

また第2軸を見ると、規則肯定と学歴否定が高いウェイトをもち、続いて偏差値や競争の肯定、そして学科目が役立つとする反応が続いている。この軸はやや解釈が難しいが、いわば学校教育に対して「しつけ」や道徳性を求める意識ではないだろうか。規則への強い肯定と学歴への強い拒否は、そのような期待と考えられる。にもかかわらずこれらの意識が競争や偏差値を肯定するのは、それが子どもの「忍耐力」や「精神力」を鍛えることへの期待と見るならば納得ができよう。

マイナス領域はその逆で、むしろ学校教育に対して实际的・実用的な能力や、「社会に通用する」資格・学歴の付与を要求する意識である。そのような意識は、学校が細かい規則をつくっ

て子どもの私生活に介入することには批判的で、また現在の学科目や競争・偏差値などが実用的能力の向上に必ずしもプラスに作用していないと見ている、と考えられる。そこで第2軸を、しつけ教育期待-実用教育期待と名付けることにする。

1軸をX軸に、2軸をY軸にとって、平面上に各カテゴリーをプロットしたのが図3-1で、また解析可能だった1016のケースをプロットしたのが図3-2である。第1象限はエリート志向が強く、学校のしつけ機能も肯定する集団である。彼らが理想とするのは「成績がよくお行儀もよい子」であり、いわば「<優等生>志向型」と呼ぶことができる。既存の学校秩序にもっとも親和的なタイプであると言えよう。第4象限はエリート志向が強く、それを保障してくれる限りにおいて学校にも協力的である。反面、学校が生活指導にエネルギーをとられ、实际的な能力・学力の育成に集中していない点には批判的である。これを「<個性的エリート>志向型」

図3-1 教育意識のカテゴリー・プロット

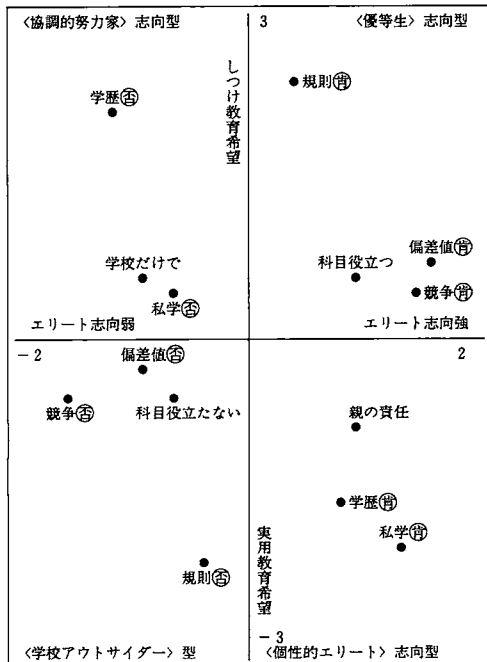
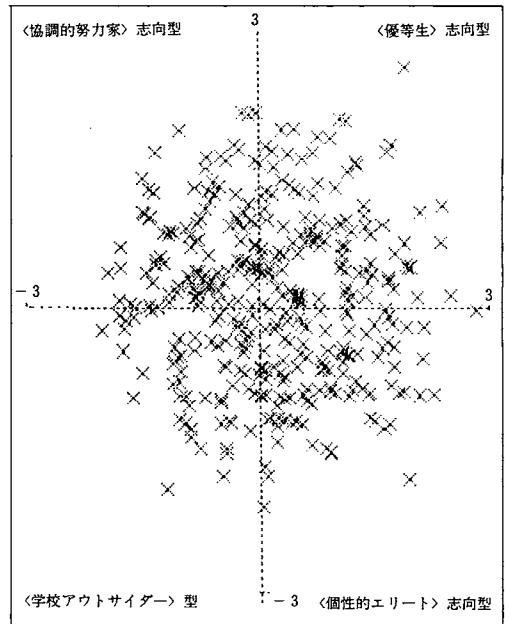


図3-2 教育意識のケース・プロット



と呼ぶことにする。第2象限はその逆で、生活指導・しつけ教育をもっと重視することを望み、教育の場が学歴達成の手段となることには批判的である。これを「<協調的努力家>志向型」と呼ぶことにする。そして第3象限は各カテゴリに対する否定意識が先行し、いずれの基準においても既存の学校秩序になじめない集団である。消極的に失望している場合と、積極的に学校批判意識をもつ場合がありうと思われるが、とりあえずこれを一括して「<学校アウトサイダー>型」と呼ぶことにする。

これが林の数量化3類解析から得られた金沢の父母の教育意識の構造モデルである。

3-2 教育意識構造と他の属性との相関

図3-2を見ると、各ケースは、学校アウトサイダー型がやや少ない以外はかなり幅広く分布していることがわかる。では上の構造モデルは、他のどのような属性とどのぐらいの強さで関係しあっているのだろうか。それは各属性ごとに、

数量化3類解析によって個体の側に付与された数値の平均（属性変数）をとり、それをこの平面上にプロットしてみればよい。特定の属性変数が大きなウェイトをもっていればその属性と密接な関係があることが予想できる。また特定の属性がどのタイプに分類されるかという輪郭を得ることもできる。以下、順次各分野の属性変数を提示していく。

a；外的属性との相関

子どもが小学生か中学生か(通し番号)、回答者が母親か父親か(問1)、子どもが男子か女子か(問2)、両親の年齢(問4・5)、金沢での居住年数(問32)を総称して「外的属性」と呼ぶことにする。これに属する各ケースに付与された1軸・2軸上の数値の平均を教育意識の平面上にプロットしたのが図3-3である。まず全体的に言えることは、すべての属性変数がそれほど大きいウェイトをもっていないという点である。X軸上ではもっとも大きいものでもプラスマイナス0.15を上回ることはない。例外は居住

図3-3 外的属性と教育意識

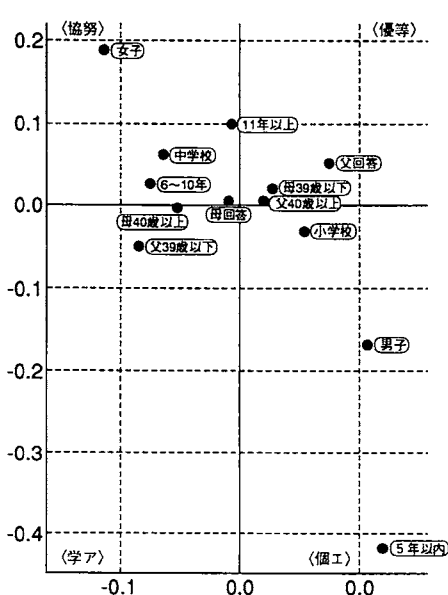
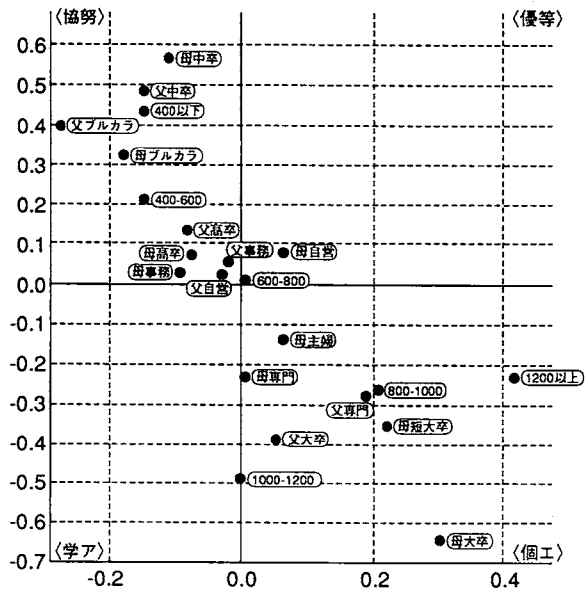


図3-4 社会階層と教育意識



5年以内の親のY軸に対する意識で、Y軸上でのマイナススコアがかなり高い。調査表の末尾に付した自由記入欄では、転勤で金沢に来たばかりだが、小学校の制服に強い違和感をもったとの記述がいくつかあった。この数値は公立小学校の制服という他の広域地方都市では見られない金沢の習慣に対する否定意識がかなり含まれていると見てよいだろう。

次に目立つのは子どもが男子か女子によって親の意識が鋭く分極化する点である。女子の親の平均が「協調的努力家」志向であるのに対し、男子の親は「个性的エリート」志向である。これは親たちの性別役割分業意識の反映とみてよいだろう。また男女ほどの大きさはないが、小学生と中学生の親の意識も対照的である。小学生の親の平均は「個性エリート」志向であるのに対し、子どもが中学生になると「協調努力家」志向に移行していくようだ。

b；社会階層との相関

親の社会階層にかかわる属性変数を教育意識

の平面上にプロットしたのが図3-4である。各分野の属性変数のうち、もっとも大きいウェイトをもった属性変数である。これは別におこなった社会階層と教育意識の相関に関するカイ2乗検定でも明確であった。ウェイトはX軸上でプラスマイナス0.4、Y軸上では同じく0.6近くもある。また社会階層の属性変数は、「優等生」型と「アウトサイダー」型はほとんどなく、「个性的エリート」と「協調的努力家」型に鋭く分極化しているのが大きな特徴である。概ね両親が大学卒(母親短大卒を含む)、両親の職業が専門管理なし専門管理の父+専業主婦の母、年収800万円以上、などの属性をもつ者の平均が「个性的エリート」志向型である。また両親が高校卒、職業が事務販売・自営農業、年収が600~800万円などの属性は一応「協調的努力家」志向型だが、ウェイトは大きくなく、それほど強い意識ではない。これに対し、両親が中学卒、職業がブルーカラー、年収600万円以下などの属性は同じ「協調努力家」志向型でも非常に大きなウェイトを

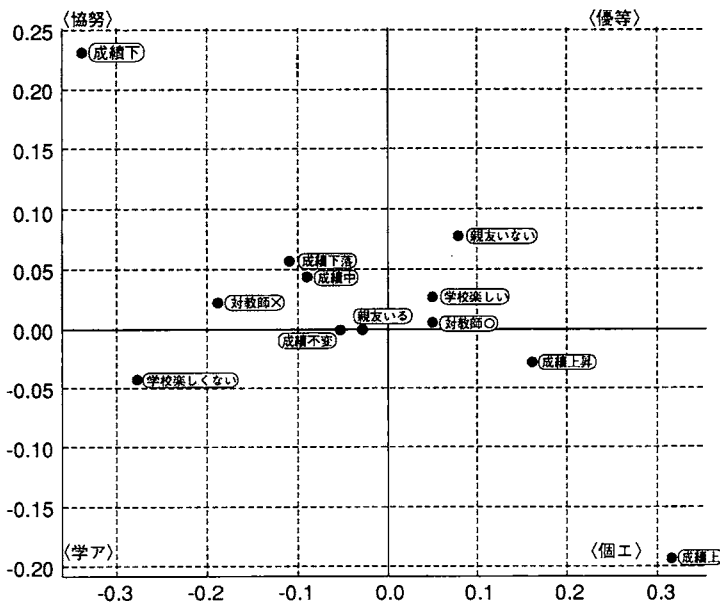
もっており、その教育意識がかなり強いことがわかる。母親学歴のカテゴリーでは母親中学卒と母親大学卒でY軸上の意識が1.2以上離れており、この属性での教育意識の分化がかなり深刻であることをうかがわせる。

ほとんど唯一「優等生」型だった属性は母親職業のうち自営農業だが、他の属性に比べてウェイトは小さい。

c；学校での成功・不成功との相関

学校における成功・不成功の属性変数を教育意識の平面上にプロットしたのが図3-5である。この属性変数

図3-5 学校での成功・不成功と教育意識



は親の社会階層についてウェイトが大きかった。特に成績と親の教育意識は強い相関関係にある。これについても別にカイ2乗検定を実施し、強い相関がみられた。成績「上」の属性ははっきりと「個人的エリート」志向型であり、成績「下」では「協調的努力家」志向である。ここでの教育意識の分化もかなり深刻である。

注目すべきなのは「親友がない」とする属性変数が「優等生」志向型に属し、「親友がいる」とする属性変数が「学校アウトサイダー」型⁽¹⁵⁾に属しており、その逆ではない点である。つまり親が優等生をめざすことと、子どもに親友ができることとの間に、やや矛盾があると言えよう。

d；生活意識との相関

金沢は子どもを育て易いかどうか(問33)、金沢に定住するつもりかどうか(問34)、老後の生活見通しが楽観的か厳しいか(問35)、仕事上で学歴が影響していると思うかどうか(問36)10年後の日本社会の競争を激化するとみるか、現状のままとみるか、緩和するとみるか(問37)、地

域社会のために活動するつもりがあるかどうか(問38)、社会保障のあり方として一律増額か格差付き増額を望むか(問39)という一連の質問で問うた意識をここでは生活意識と総称する。生活意識の各属性変数を教育意識の平面上にプロットしたのが図3-6である。

この図の特徴は、全体としてウェイトがそれほど大きくないことである。ウェイトが比較的大きい属性は、社会階層が直接的に反映しやすいものが多く、これらの生活意識が階層と同じく「個人的エリート」型と「協調的努力家」型に分化するのは当然と言えよう。注目すべきなのは、将来の社会の競争予測と教育意識の相関である。現在程度の競争が続くとの見方とエリート志向は相関しているようだ。つまり現在程度の競争実態なら対応可能であり、是認する集団であるといえよう。これに対して競争が激化しないしは緩和するという、いわば正反対の見方がエリート志向が弱いという点では親近性を示した。

図3-6 生活意識と教育意識

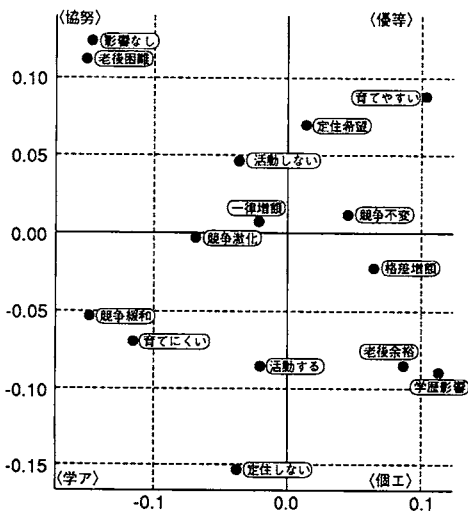
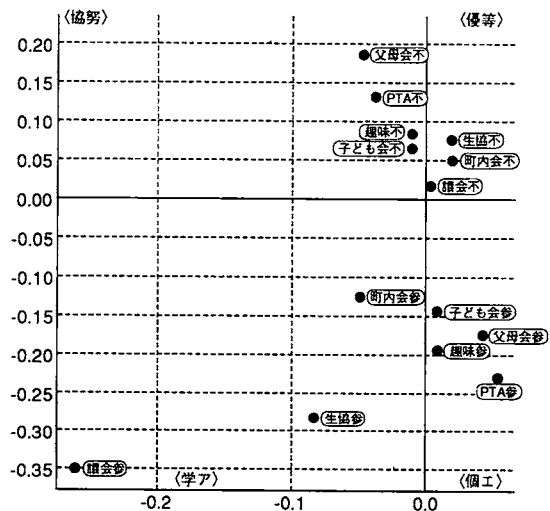


図3-7 参加経験と教育意識



また金沢は子どもを育てやすいとは言えないとする属性は「学校アウトサイダー」型であった。これもある意味では当然と言えよう。

e ; 各種会合・団体への参加行動との相関

教育上の会合や団体、教育とは直接関係のない会合や団体での参加経験や活動経験と、教育意識とは関係があるのだろうか。本調査では問29～31にかけて、参加経験の有無、参加経験がどういう意味をもったか、今後それらに参加する意志や意欲があるかどうかを聞いた。ここでは経験の有無に関する属性変数を教育意識の平面上にプロットしてみた。それが図3-7である。

聞いたのは、①学級父母懇談会、②PTA役員、③子ども会や少年スポーツ団体、④趣味のサークル、⑤生協班長・婦人団体、⑥町内会、⑦議会への請願・陳情という7種についてである。これをみると、PTA、学級父母懇談会、子ども会など、子どもの教育に直接関係のある会合・団体については、積極的に参加しているのが、「個性的エリート」志向型、参加していないのが「協調的努力家」志向型という分化がかなりはっきりと出ている。つまりその参加行動は社会階層や子どもの成績による教育意識の分化と重なっている。これらの会合に実質的に参加してくるのは「個性的エリート」志向型が中心で、現状では多様な教育意識が交流・討論できる場とはなっていないことがうかがえる。

それに対してきわめて特徴的だったのが、教育とは直接関係がないと思われる社会的な会合・団体での参加経験であった。図3-7を見れば明らかなように、町内会、生協、議会請願などの活動での参加経験という属性変数が、かなり大きなウェイトで「学校アウトサイダー」型の意識を示している。しかも政治意識的にはどちらかと言えば保守色が強いと思われる町内会、どちらかと言えば革新色が強いと思われる生協のいずれも、ウェイトの違いはあれ、このタイプに属していることは、学校や教育関係以外の会合・団体での参加経験が、現在の学校のあり方に対する多少なりとも批判的な意識を育ててい

る可能性がある。生活意識分野で、地域活動に関与したいとする属性がやはり「学校アウトサイダー」型だったこととも重ねて考えると、このことはかなり確実であると思われる。議会請願の参加経験は保守系・革新系のいずれであるかは不明で、また生協や町内会と比べてもケース数がかかなり少ない(23人)ので、これがどのようなメカニズムでこうなっているかをただちに説明するのは困難である。しかし議会請願というきわめて積極的な社会参加経験の持ち主がこれほど強い「学校アウトサイダー」型意識を持っていることは今後重要な検討テーマとなるだろう。

前に「学校アウトサイダー」型には、消極的に学校に失望している場合と、積極的に学校批判意識をもっている場合がありうると述べた。

少なくとも社会参加経験の属性変数が示唆するのは、「金沢は子どもを育てやすい」「金沢に定住するつもりはない」(図3-6)などから受けるこれまでの「消極型」というイメージだけでは「学校アウトサイダー」型はとらえきれないということであろう。

3-3 小結；教育意識の4類型の動態

以上、教育意識の構造モデルを用いて、各類型の特徴を検討してきた。ここで4類型の相互関係や全体的動向の特徴について述べ、小結としたい。

まず第1の特徴は、すでに再三指摘してきたが、教育意識が「個性的エリート」志向と「協調的努力家」志向に分化していることである。両者は教育への期待において共通項がなく、しかも分化の程度はかなり大きい。またこの分化は社会階層や子どもの成績など重要な属性と関係があるため、非常に強固である。しかも学級父母懇談会やPTAが両タイプの交流の場となっていないことは、それぞれが自己の意識を相対化する機会に乏しいことを示している。

第2の特徴は、「優等生」志向型が該当ケースの絶対数ではかなり多いにもかかわらず、この

意識を担っている有力な属性変数が見あたらなかったことである。つまりこのタイプはケースのプロット(図3-2)から受ける印象ほどには安定的ではなく、むしろ「個性的エリート」志向型と「協調的努力家」志向型の周辺部分がクロスオーバーすることによって、結果としてある程度のケースが属することになったタイプと判断することができる。したがって今後、もし上記で指摘した教育意識の分化が進めば(実際、首都圏M市ではそのような分化はかなり深刻である)、2つに分解する可能性をはらんだ型であると言えよう。

第3の特徴は、「学校アウトサイダー」型が検討すべき問題を多く提供している点だ。このタイプは現在の学校秩序の中ではもっともマージナルな存在である。おそらく子どもの学校生活や親の教育的な営みの中で何らかの否定的な体験にぶつかり、「子どもを育てにくい」「長くは住まないだろう(住みたくない)」という実感をもっていることが予想される。それは何だったのか。単に成績が芳しくないだけなら、協調的努力家志向になってもおかしくはない。また別の側面として、このタイプは社会参加(職業をもっていることとは一応別である)に積極的で、そこで知った世界から教育に対する独自の判断基準を獲得し、学校のあり方を判断して疑問をもつに至った、と言えるだろう。その判断基準とはどのようなものなのか。人によって消極型・積極型に分けられる場合もあれば、1人の個人の中に両面が同居している場合、またある人が前者から後者に移行することもある。いずれにせよ、もっとも検討すべき問題群に満ちたタイプである。

4. まとめにかえて

1章でみた社会階層と学校における成功・不成功との関係、2章でみた教育意識の動態を合わせてみるなら、金沢においても学校教育をめぐる階層間対立が潜在的にはかなり深刻化しつ

つある様子うかがえる。そして重要なことは、臨教審第1部会が打ち出していた「教育の自由化」論は、具体的には「個性的エリート」志向型の教育要求に沿ったものだという点である。つまり学校に社会の平等化機能を負わせることをはっきり否定し、親の教育サービス購入を自由化しようとするわけだから、高い階層の親が高価なサービスを購入して子どもの成績・階層を高めようとする行動をむしろながすことになる。そして確かにそれはこのタイプの教育要求と合致している面がある。

今のところ金沢では、「個性的エリート」志向型の周辺部分が「優等生」志向型に属していることに示されるように、このグループによる公立学校に対する批判や不満は顕在化していない。しかし交通・通信網の整備発達によって大都市圏の資本や人材、情報が流入してくるに当たって、このグループの「個性的エリート」志向はますます強まってくる可能性が高い。その時に学校設置基準の緩和(塾によるの私学設立)や小中学校の大学区化(越境通学の容認)などの「自由化」措置がとらなければこのグループの不満は高まるだろうし、そのような措置がとられれば「協調的努力家」志向型の親たちとの教育意識の分化は決定的なものとなるだろう。

このような教育意識の分化に対して、今後検討のポイントとなると思われるのが「学校アウトサイダー」型の教育意識であろう。先に述べたように「優等生」志向型は教育意識の分化に従って二極分解する可能性が高い。しかし「学校アウトサイダー」型は、むしろ今後学校に教育要求の対立が持ち込まれる中で増える可能性がある。現状を分類した2つの軸のいずれにもなじめないがゆえに、もっとも鋭い問題提起が可能なのかも知れない。

- (1) 都立大グループの調査概要と結果については、同グループ編『教育における競争と共同の意識調査報告書』(1990年12月、非売品)および同グループの中心メンバーによる諸論文(東京都立大学教育学研究室紀要

- 『教育科学研究』第10号, 1991年6月, 所収の村上純一・富田充保・荒井文昭各氏の論文) 参照のこと。なお, 本稿の分析の内容・方法は上記メンバーから教えていただいたこと, 彼らとの討論に負っている。
- (2) 宇沢弘文訳『アメリカ資本主義と学校教育』1986年, 岩波書店
 - (3) 公教育制度が, 現存する社会階層間の格差の縮小ではなく, 維持・再生産に寄与しているとする理論。
 - (4) 社会階層と社会移動に関する全国調査。日本社会学会が主体となり, 1955年から10年おきに実施されている。報告書『現代日本の階層構造 1~4巻』(1990年1月, 東大出版会) 参照のこと。
 - (5) ピアノやバイオリンなど価格が数万円以上のものに限った。
 - (6) 上と中の上を「上」, 中の下と下を「下」と再コード化した。
 - (7) かなり上がったとやや上がったを「上がった」に, やや下がったとかなり下がったを「下がった」に再コード化した。
 - (8) 代表的な統計的検定のひとつ。2つの変数のクロス集計表における各セルについて(観測度数-期待度数)²/期待度数を測定し, その総和が「2つの変数は相関していない」という帰無仮説に立ったカイ2乗分布よりも大きくなる可能性を示すのがP値である。P値が0.001を下回る場合, その可能性(2変数が相関していない)はほとんどありえないと判断してよい。
 - (9) 前註参照のこと
 - (10) 年収幅のきざみが800万~1200万のところだけ400万になっているのは, 800万~1000万・1000万~1200万の隣接する集団ではほとんど相違がみられなかったため便宜上合算したことによる。
 - (11) 今回の調査ではパートタイムかフルタイムかなど雇用形態までは調べていない。
 - (12) これら3つのうち, 楽器類は女子に偏りがちであ

り, また衛星放送受信機は他の2つよりやや娯楽性が強いと思われる。

- (13) 文部省統計数理研究所の林知己夫によって開発された多変量解析の一般的手法のひとつ。n個の個体(ケース)がm種の刺激(アイテム)にある反応(カテゴリ)をしたとき, 似たような反応をしたケース, 似たようなカテゴリが隣接して並ぶように数量を与えて, ケースとカテゴリを同時に分類する手法。
- (14) しかしすべて0, つまり全問に「わからない」というパタン(1017のうち1人)は, 手持ちの数量化3類プログラムでは解析ができないのでケースから除いた。
- (15) 図ではX軸上に見えるが, 2軸の平均スコアはわずかにマイナスである。

(お礼の言葉)

本調査研究にあたって大変多くの方々にお世話になった。データ収集にあたっては, 調査を承認・協力して下さった金沢市教育委員会学校教育課(横山恵六課長)ならびに市内30の小中学校の校長先生, 協力していただける学校や担任の先生を紹介して下さった先生方, そして調査票を配布・回収して下さった30人の担任の先生(なかには説明の添書きを作って下さった先生もおられた), そして調査票を運んで下さった児童・生徒の皆さん, 長い調査票に丹念に答えて下さった父母・保護者の皆さんに感謝したい。

またデータの解析にあたっては金沢大学教育学部の金子劭栄教授(教育心理学), 伊藤悟助教授(地理学)に大変お世話になった。記して感謝する。

調査表と回答の単純集計

(N. Aは無解答など)

- 問1 まず、アンケートにお答えくださる方とお子さんの関係についてお答えください。
1、母親 2、父親 3、祖母 4、祖父 5、その他 N. A. 1
87.3%(888) 11.6%(118) 0.1%(1) 0%(0) 0.7%(7) 0.3%(3)
- 問2 アンケートの対象となるお子さんの続柄をお答えください。2
1、長男 2、次男 3、三男 4、長女 5、次女
30.9%(314) 16.5%(168) 2.4%(24) 33.9%(345) 13.5%(137)
6、三女 7、その他 N. A.
1.8%(18) 0.9%(9) 0.2%(2)
- 問3 また、お子さんは全部で何人ですか。3
平均(2.41)人
御両親の年齢についてお聞きます。満の年齢をお答えください。4,5
- 問4 お父さんはいくつでしょう
1、20～29歳 2、30～39歳 3、40～49歳 4、50～59歳
0.3%(3) 20.4%(207) 71.2%(724) 3.6%(37)
5、60歳以上 6、父親はいない N. A.
0.1%(1) 3.6%(37) 0.8%(8)
- 問5 お母さんはいくつでしょう
1、20～29歳 2、30～39歳 3、40～49歳 4、50～59歳
0.4%(4) 51.8%(527) 46.0%(468) 1.0%(10)
5、60歳以上 6、母親はいない N. A.
0%(0) 0.7%(7) 0.1%(1)
- 問6 お子さんは学校の先生とうまくいっているようですか。あてはまるものを選んでください。6
1、そう思う 2、そう思わない 9、わからない N. A.
76.9%(782) 2.9%(29) 19.9%(202) 0.4%(4)
- 問7 お子さんには親しい友人がたくさんいるようですか。あてはまるものを選んでください。7
1、そう思う 2、そう思わない 9、わからない N. A.
82.1%(835) 11.0%(112) 6.6%(67) 0.3%(3)
- 問8 お子さんは、学校で部活動をしていますか。あてはまるものを選んでください。8
1、している 2、していない 3、やめた N. A.
88.3%(898) 8.5%(86) 1.7%(17) 1.6%(16)
- 問9 前問で、部活動を「している」とお答えの方にお聞きます。そこでのお子さんの様子は楽しそうですか。あてはまるものを選んでください。9
1、そう思う 2、そう思わない 9、わからない N. A.
73.5%(747) 5.4%(55) 12.6%(128) 8.6%(87)
- 問10 お子さんは学校生活を楽しくおこなっていると思いますか。あてはまるものを選んでください。10
1、そう思う 2、そう思わない 9、わからない N. A.
81.2%(826) 5.7%(58) 12.9%(131) 0.2%(2)
- 問11 次に、お子さんの成績についてお聞きます。現在、お子さんの成績はどのくらいと思われますか。あてはまるものを選んでください。11
1、上 2、中の上 3、中 4、中の下 5、下 9、わからない N. A.
9.1%(93) 27.0%(275) 32.2%(327) 17.3%(176) 12.5%(125) 1.6%(16) 0.3%(3)

- 問12 現在のお子さんの成績は小学校3年生の頃と比べてどう変わりましたか。12
- | | | | |
|------------|------------|------------|------------|
| 1、かなり上がった | 2、やや上がった | 3、変わらない | 4、やや下がった |
| 5.2%(53) | 21.6%(220) | 42.7%(434) | 16.1%(164) |
| 5、かなり下がった | 9、わからない | N. A. | |
| 10.3%(105) | 3.3%(34) | 0.7%(7) | |
- 問13 お子さんの成績がよくなるために何かされていますか。あてはまるものをすべて選んでください。
13.14.15.16（註；複数回答の場合にはもっとも上段の回答のみに再コード化した）
- | | |
|-----------------|-------------|
| 1、家庭教師をつけている。 | 5.5% (56) |
| 2、学習塾に通わせている。 | 31.1% (316) |
| 3、親が勉強を見てあげている。 | 9.0% (92) |
| 4、特に何もしていない。 | 46.4% (472) |
| 5、その他 | 7.5% (76) |
| N. A. | 0.5% (5) |
- 問14 お子さんは、現在何か習い事（お稽古事）をしていますか。あてはまるものすべて選んでください。17
- | | | | | | |
|--------------|-------------|-------------|-------|--------|-------|
| 1、水泳 | 2、そろばん | 3、習字 | 4、テニス | 5、サッカー | 6、ピアノ |
| 7、ピアノ以外の楽器 | 8、バレエ・ダンス、等 | 9、その他（記入：） | | | |
| 10、習い事はしていない | | | | | |
| | 習い事2つ以上 | 17.5% (178) | | | |
| | 習い事1つ | 31.7% (322) | | | |
| | 習い事なしN. A. | 50.8% (517) | | | |
- 問15 子ども部屋についてお聞きます。お子さんは子ども部屋をもっていますか。あてはまるものを選んでください。18
- | | |
|--------------------------|-------------|
| 1、自分のへやをもっている。 | 58.2% (592) |
| 2、他の兄弟（姉妹）と一緒にの部屋をもっている。 | 32.4% (330) |
| 3、子ども部屋はもっていない。 | 9.1% (93) |
| N. A. | 0.2% (2) |
- 問16 アンケートの対象となっているお子さんについて学校以外の場でかかる教育費（塾、習い事、家庭教師等の費用）は、一ヶ月でどのくらいになりますか。あてはまるものを選んでください。19
- | | | |
|------------------|-------------|-------------|
| 1、0（学校以外にはかからない） | 2、0～1万円未満 | 3、1～2万円未満 |
| 18.1% (184) | 37.2% (378) | 29.8% (303) |
| 4、2万円以上 | N. A. | |
| 13.2% (134) | 1.8% (18) | |
- 問17 ご家庭でお持ちのものについてお聞きます。次のうち、ご家庭でお持ちのものがありましたらすべて選んでください。20
- | | | |
|-----------|--------------------|---------------|
| 1、学習机 | 2、百科事典、文学全集、美術全集、等 | 3、エアコン |
| 4、ビデオ | 5、ピアノ | 6、楽器類（記入：） |
| 7、衛星放送受信機 | 8、テレビゲーム（ファミコン等） | 9、ワープロ、パソコン、等 |
| 10、別荘 | | |
- （註；今回は百科事典類、楽器類、衛星放送に着目して再コード化した）
上記文化財を、3つとも所有、2つ所有、1つ所有、所有していない+ N. A.
- | | | | |
|-----------|-------------|-------------|-------------|
| 6.1% (62) | 28.2% (287) | 40.4% (411) | 25.3% (257) |
|-----------|-------------|-------------|-------------|

問18 お子さんが今後人生をきりひらいていく上で、特にどのような能力や態度が大事だと思われますか。次の中から3つ選んでください。

- | | | |
|---------------------------|------------|--------|
| () 21 | () 22 | () 23 |
| 1、読み・書き・算の基礎学力をしっかりと身につける | 8.9%(271) | |
| 2、創造的である | 4.7%(144) | |
| 3、人と議論できる | 2.5%(76) | |
| 4、専門的知識・技能を身につける | 10.7%(327) | |
| 5、正義感を持つ | 2.6%(79) | |
| 6、堅実である | 2.4%(72) | |
| 7、自分に自信を持つ | 13.5%(413) | |
| 8、独立心を持つ | 4.2%(128) | |
| 9、気持ちの大きさ | 3.6%(111) | |
| 10、人の気持ちを理解できる | 14.7%(448) | |
| 11、人から信頼される | 5.0%(154) | |
| 12、人と協力してやっつけていける | 16.5%(504) | |
| 13、忍耐力がある | 12.5%(382) | |
| 14、その他(記入) | 0.0%(7) | |
| N. A. | 1.4%(14) | |

問19 お子さんの現在の担任の先生は、どのような点ですぐれていると思いますか。次の中から、すぐれていると思われる点を3つ選んでください。

() 24 () 25 () 26

問20 では、来年度どのような資質をもった先生に受け持たれることを希望しますか。上の問19の項目から3つ選んでください。

() 27 () 28 () 29

- | | 現在 | 来年 |
|------------------------------|------------|------------|
| 1、学習の遅れた子や進んだ子など個々に応じた指導ができる | 1.4%(42) | 9.1%(277) |
| 2、授業がわかりやすい | 6.1%(185) | 15.4%(470) |
| 3、子どもに人気がある | 9.5%(290) | 4.3%(131) |
| 4、真面目で熱心である | 11.9%(362) | 7.0%(213) |
| 5、クラスの子ども全員に、えこひいきせず公平に接する。 | 9.1%(278) | 11.6%(353) |
| 6、親との話し合いに積極的である | 4.2%(127) | 2.3%(70) |
| 7、学力水準の高いクラスにする | 1.2%(36) | 1.7%(53) |
| 8、子どもの人間関係を大事にしている | 10.2%(312) | 13.3%(405) |
| 9、クラブ活動や部活動の指導にすぐれている | 4.9%(149) | 0.9%(26) |
| 10、子どもをよく理解しようとする | 13.4%(410) | 18.0%(549) |
| 11、主要教科の指導にすぐれている | 1.5%(45) | 2.1%(64) |
| 12、子どもから尊敬されている | 2.5%(75) | 9.3%(285) |
| 13、地域での教育・文化活動に熱心である | 1.3%(40) | 0.7%(21) |
| 14、その他(記入) | 1.5%(46) | 0.2%(5) |
| N. A. | 21.4%(654) | 4.2%(127) |

問21 ご家庭でお子さんと話をする時間は一日平均どのくらいになりますか。30

- | | | |
|------------|------------|------------|
| 1、0～1時間未満 | 2、1～2時間未満 | 3、2～3時間未満 |
| 31.9%(324) | 38.5%(392) | 17.7%(180) |
| 4、3～4時間未満 | 5、4時間以上 | N. A. |
| 7.3%(74) | 3.8%(39) | 0.8%(8) |

問22 現在のような学力（成績）競争についてどうお考えですか。次のうち、近いものに○をつけてください。31

- 1、将来社会で体験する競争の厳しさに慣れるなど、良い面もある。
2、学力が低いと人間としてもだめだと思わせるなど、悪い面しかない。
1=47.4%(482) 2=47.7%(485) N.A.=4.9%(50)

問23 現在の高校は、偏差値によって細かくランク分けされていると言われています。このことは、高校生が学ぶ環境としてはどうでしょうか。次のうち、近いものに○をつけてください。32

- 1、生徒の学力差が小さい方が効率よく学習できるなど、どちらかといえば好ましいと思う。
2、能力や個性の異なった生徒が出会いにくくなるなど、どちらかといえば好ましくないと思う。
1=30.3%(308) 2=63.4%(645) N.A.=6.3%(64)

問24 現在学校で教えている授業科目の内容は、子どもにとって役に立つと思いますか。次のうち、近いものに○をつけてください。33

- 1、ほとんどのものが、役に立つと思う。
2、役に立たないものもあると思う。
9、わからない。
1=32.5%(331) 2=58.8%(598) 9+N.A.=8.7%(88)

問25 塾や家庭教師などについてどうお考えですか。次のうち、近いものに○をつけてください。34

- 1、ある程度、親が責任を持つのは、やむをえない。
2、学校だけで勉強がわかるよう教えてほしい。
1=37.3%(379) 2=60.2%(612) N.A.=2.6%(26)

問26 お子さんをどこまで進学させたいとお考えですか。35

- 1、義務教育終了 2、高校卒業 3、専門学校卒業
0.2%(2) 16.6%(169) 8.2%(83)
4、短大卒業 5、大学卒業 6、その他 9、わからない + N.A.
14.0%(142) 53.1%(540) 3.3%(34) 4.6%(47)

問27 金沢に、学費は高いが受験指導に優れた中高一貫の私立学校がいくつか設立された場合、お子さんをそのような学校に進学させたいとお考えですか。36

- 1、考える 2、考えない 9、わからない N.A.
14.6%(148) 56.3%(573) 28.6%(291) 0.5%(5)

問28 学校が子どもの頭髪や服装などについてきまりを作り、それを子どもに守らせるようなことについて、どのようにお考えですか。37

- 1、必要である 2、必要ではない 9、わからない N.A.
38.6%(393) 49.2%(500) 11.8%(120) 0.4%(4)

問29 学校への参加、地域活動への参加についてお伺いします。あなたは、次にあげるようなことなら、これまでどの程度かかわってこられましたか。それぞれについてあてはまる欄に1つだけ○を記入して下さい。

	よく行ってきた	余り行かなかった	知らない	無回答
学級父母懇談会 38	48.4%(492)	47.2%(480)	4.1%(42)	0.3%(3)
P T A役員としての活動 39	33.6%(342)	47.6%(484)	17.7%(180)	1.1%(11)
子ども会、スポーツ少年団などの活動 40	32.3%(328)	45.3%(461)	20.8%(212)	1.6%(16)
趣味やスポーツなどのサークル 41	25.4%(258)	45.3%(461)	27.4%(279)	1.9%(19)
生協班長や婦人団体の活動 42	18.9%(192)	46.3%(471)	33.2%(338)	1.6%(16)
自治会・町内会の活動 43	34.4%(350)	46.3%(471)	17.8%(181)	1.5%(15)
議会などへの陳情・請願 44	2.3%(23)	34.4%(350)	61.5%(625)	1.9%(19)

問30 あなたは、これまでにかかわった事柄に対して、どのような感想をお持ちですか。あなたの感想に最も近いものを選び、それぞれ、あてはまる欄に○を1つ記入してください。

	勇気づけられる仲間が得られた	有益な知識や情報が得られた	余り意味がなかった	参加したことがない	無回答
学級父母懇談会45	9.5%(97)	43.0%(437)	33.7%(343)	12.5%(127)	1.3%(13)
P T A役員としての活動46	14.9%(152)	31.0%(315)	18.9%(192)	18.9%(192)	1.7%(17)
子ども会スポーツ少年団などの活動47	16.2%(165)	27.4%(279)	15.1%(154)	38.8%(395)	2.4%(24)
趣味やスポーツなどのサークル48	19.7%(200)	19.7%(200)	8.6%(87)	49.8%(506)	2.4%(24)
生協班長や婦人団体の活動49	6.8%(69)	20.5%(208)	15.2%(155)	55.5%(564)	2.1%(21)
自治会・町内会の活動50	10.2%(104)	26.9%(274)	26.5%(269)	34.0%(346)	2.4%(24)
議会などへの陳情・請願51	0.8%(8)	3.9%(40)	6.2%(63)	86.8%(883)	2.3%(23)

問31 あなたは今後、次の事柄へ参加することについて、どのようにお考えでしょうか。あなたの意見に最も近いものを選び、それぞれ、あてはまる欄に○を1つ記入して下さい。

	なるべく参加して いきたい	誘われたら参加 してみたい	全くかわるつもり はない	わからない・無回答
学級父母懇談会52	63.5%(646)	15.3%(156)	6.1%(62)	15.0%(153)
P T A役員としての活動53	18.7%(190)	29.9%(304)	22.8%(232)	28.9%(291)
子ども会スポーツ少年団などの活動54	25.4%(258)	32.2%(327)	16.9%(172)	25.6%(260)
趣味やスポーツなどのサークル55	33.2%(338)	35.9%(365)	9.4%(96)	21.4%(218)
生協や婦人団体の活動56	12.9%(131)	29.0%(295)	25.9%(263)	32.3%(328)
自治会・町内会の活動57	20.5%(208)	33.5%(341)	15.7%(160)	30.3%(308)
議会などへの陳情・請願58	4.6%(47)	15.6%(159)	29.5%(300)	50.2%(511)

問32 金沢にお住まいになって何年になりますか。59

1、3年未満 2、3～5年 3、6～9年 4、10～19年
 6.8%(69) 5.5%(56) 5.1%(51) 27.9%(284)
 5、20～29年 6、30年以上 7、生まれたときから
 11.6%(118) 8.3%(84) 32.5%(331)

問33 金沢は子どもを育てやすいですか。60

1、育てやすい 2、育てにくい 3、両面ある 4、どちらとも言えない N. A.
 45.3%(461) 3.1%(32) 30.0%(305) 19.0%(193) 2.6%(26)

問34 今後ともこの地域に住み続けたいですか。61

1、住み続けたい
 2、住み続けたいが仕事の都合で転居することになるかもしれない
 3、転居したい・・・具体的な考えがございましたらお聞かせ下さい
 ()年後に、()へ転居したい。
 9、わからない
 1=72.4%(736) 2=11.2%(114) 3=5.5%(56) 9=10.1%(103) N. A.=0.8%(8)

問35 ご両親の老後の生活の見通しについてお聞きします。次のうち最も近いもの1つに○をつけて下さい。62

- 1、有価証券（株や国債など）・不動産・貯蓄などの個人的な蓄えだけで十分生活していける。
 - 2、社会保障（厚生年金など）と個人的な蓄えを合せると、どうにかやってゆける。
 - 3、社会保障と、子どもの収入などで何とかやってゆける。
 - 4、社会保障も個人的な蓄えも期待できないが、働いて収入を得てやってゆきたい。
- 1=5.6%(57) 2=50.5%(514) 3=4.7%(48) 4=35.3%(359) N.A.=3.8%(39)

問36 10年後の日本社会の競争は、どうなるとお考えですか。次のうち近いもの1つに○をつけて下さい。63

- 1、かなり競争が厳しくなっていると思う。 29.4%(299)
- 2、やや競争が厳しくなっていると思う。 21.5%(219)
- 3、現在の程度の競争が続いていると思う。 24.2%(246)
- 4、現在よりも競争は和らいでいると思う。 10.9%(111)
- 9、わからない。+ N. A. 13.9%(142)

問37 ご主人（あるいは、あなたご自身）の現在の仕事上で、学歴はどのくらい影響しているとお思いですか。次のうち、近いもの1つに○をつけてください。64

- 1、大いに影響している 19.7%(200)
- 2、やや影響している 32.3%(328)
- 3、余り影響していない 30.7%(312)
- 4、全然、影響してない 13.0%(132)
- 9、わからない + N. A. 4.4%(45)

問38 今、街づくりの一環として、公園・図書館・公民館など、あなたのお住まいの地域に必要な施設の建設が計画されたとします。そのときあなたは、住民の要望を実現するために、活動するつもりがありますか。次のうち、近いものに○をつけてください。65

- 1、少し時間をさいても市民の要望が実現するように活動する。 29.8%(303)
- 2、自分の時間をさいてまで活動するつもりはない。 30.0%(305)
- 9、わからない。 38.8%(395)
- N. A. 1.4%(14)

問39 今後の社会保障（厚生年金など）のあり方についてどのようにお考えですか。次のうち、近いものに○をつけてください。66

- 1、誰でも老後や病気の心配のないように、社会保障を一律に底上げしてほしい。
 - 2、勤勉に働いた人とそうでない人の間で、ある程度の差がつくような社会保障にしてほしい。
 - 9、わからない。
- 1=66.2%(673) 2=20.2%(205) 9=12.1%(123) N.A.=1.6%(16)

ご両親が最後に行かれた学校は何ですか。67、68

問40 お父さんは

- | | | | | |
|---------------------|----------------------|-------------------------|---------------------|--------------------|
| 1、中学校
12.8%(130) | 2、高校
44.4%(452) | 3、各種学校・専門学校
5.6%(57) | 4、短大・高専
2.6%(26) | 5、大学
28.1%(286) |
| 6、大学院
2.7%(27) | 7、その他（記入：
0.3%(3) |) | N. A.
3.5%(36) | |

問41 お母さんは

- | | | | | |
|-------------------|----------------------|---------------------------|-----------------------|------------------|
| 1、中学校
8.1%(82) | 2、高校
56.4%(574) | 3、各種学校・専門学校
11.0%(112) | 4、短大・高専
13.6%(138) | 5、大学
7.5%(76) |
| 6、大学院
0.5%(5) | 7、その他（記入：
0.4%(4) |) | N. A.
2.6%(26) | |

